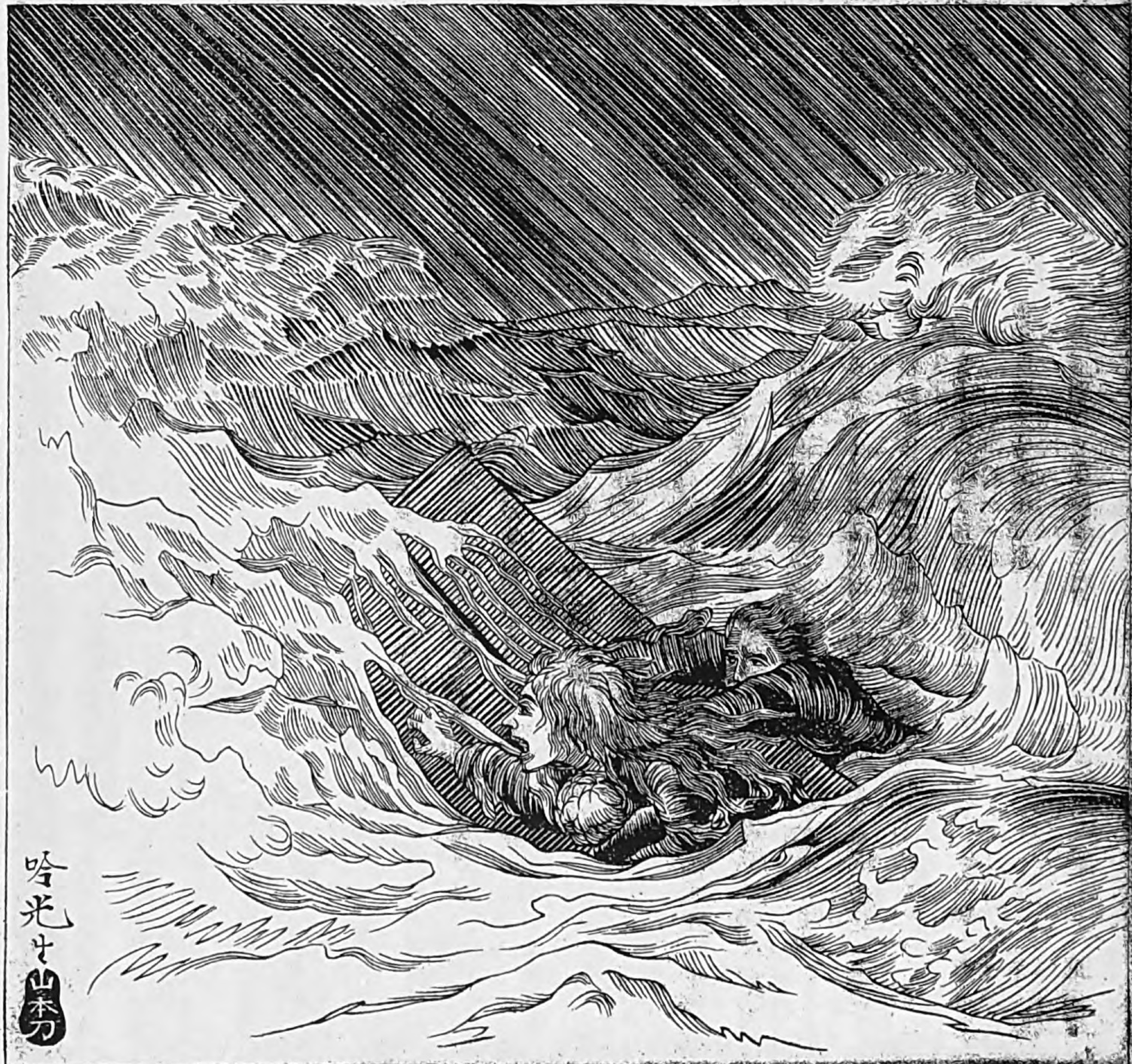
(英和語羅馬字對譯挿入)

A translation to the English from the Japanese cont ained.

女學雜誌

第拾五號　毎土曜日發兌　明治十九年三月廿七日　驛遞局認可

此の繪の說明は本紙中に在り



The Engraving illustrated in another page.

東京橋區南鍋町貳丁目拾壹番地　發行所　績文舍

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

女學叢誌第十五號目次

●官報●女學叢譚○今の時ハ夫れ何れの時ぞ(上)●中外新報搭件●家庭敎育の鑑○小督●英語の栞(附羅馬字話)●內外烈女傳●船將の妻リンカルド氏の勇氣○紫式部小傳●松田ざつ女の傳○奈良義成が妹●女紅○香水の製法○前號の讀きヴールン氏西洋料理法の翻譯○匂ひ袋製法●群芳詞苑●稗史小說○英國剪燈情話(第一回)●御伽草○證謎○蟹の横這ひ○屎口頭になり○謎○考へもの●机の塵數件●諸廣告

明治十九年三月廿七日

本誌代價表

部數	代價	郵税
壹册	正價金四錢	此郵税壹錢
拾册	同金三拾八錢	同拾錢
二拾册	同金七拾五錢	同二拾錢
三拾册	同金壹圓拾錢	同三拾錢
四拾册	同金壹圓四拾錢	同四拾錢
五拾册	同金壹圓七拾錢	同五拾錢

但シ東京十五區內郵税不申請

本舍ハ御注文有之と雖とも前金御送附無之間ハ叢誌配達不仕事に內規相定候に付御注文の節ハ必ず代價郵税共郵便爲替又ハ通運便にて御送附わらんとを希ふ○郵券代用ハ御斷り申上候亂一郵便切手を以て代價御送附の節ハ壹錢切手にて一割增を乞
郵便爲替ハ芝區芝口郵便局へ御振込ミ其爲替分を本舍へ御送附可被下候

但し東京十五區內ハ御斷り無之間ハ引續き配達仕候

明治十九年 女學叢誌毎土曜日發兌表

月					
一月	二日	九日	十六日	廿三日	三十日
二月	六日	十三日	二十日	廿七日	
三月	六日	十三日	二十日	廿七日	
四月	三日	十日	十七日	廿四日	
五月	一日	八日	十五日	廿二日	廿九日
六月	五日	十二日	十九日	廿六日	
七月	三日	十日	十七日	廿四日	卅一日
八月	七日	十四日	廿一日	廿八日	
九月	四日	十一日	十八日	廿五日	
十月	二日	九日	十六日	廿三日	三十日
十一月	六日	十三日	二十日	廿七日	
十二月	四日	十一日	十八日	廿五日	

廣告料定則

一行二十七字詰	壹回分	二回分	三回分	四回分
自一行至十行	八錢	七錢	六錢五厘	五錢
自十一行至二十行	七錢	六錢五厘	六錢	四錢五厘
自二十一行至三十行	六錢	五錢五厘	五錢	四錢
自三十一行至五十行	五錢五厘	五錢	四錢五厘	三錢五厘

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

◎官報

本年三月二十日

○文部省令第一號

自今當省所轄東京師範學校に於て府縣立師範學校其他公立學校の女教員たるへき者を養成せんか爲めに左の要項に據り生徒を募集す

北海道廳府縣

明治十九年三月二十日　文部大臣　森　有禮

一　府縣立師範學校の二箇年以上の課程を卒りたる者を撰抜して入學せしむること
　但し時宜により小學高等科卒業生及ひ之に等しき學力を有する者を撰抜して入學せしむることあるへし
一　入學志願者は其府縣學務課長及ひ師範學校長に於て學力品行を撿定證明し之を推薦すへきこと
一　撰抜したる生徒の學資は東京師範學校より支給すること
　但し其旅費は自辨すへし
一　右生徒卒業の後は文部省より其就職地並に俸額等を指定すること

◎女學叢譚

○今の時は夫れ何れの時ぞ　上

蘆野明日香

善き人あつまりてよき家となりよき家集りてよき國となりよき國集りてよき天下となることは道理上最も見やすきの道理にして誰れ〳〵もよく知りてぞありつらん而して其のよき人物を多く造り出さんはくれ女子の職分にして家庭教育の如何にこそ由るものなれ若し婦人女子にして智識もなく學才もなくば將た如何にしてか其の子を教へ如何よしてか其の子を導かん子にして教えられも導かれざるときは亦如何にして博學多識の士女となることを得べきぞ其の博學多識の士女となるとを得ざるや論を待たざる處ろにして世に學士識者なきときは國の駸々乎として文明に進み開化よ赴くの日は到底期すべからざるの事ともなり去れば婦人女子は文明の母なりと云ひ又た其の國文明の度は女子の地位を見て知るとの云ふ先哲の金言宜べにして婦人女子に學問の大切なることは努男兒社會に異なるとなし故をもて男兒の地位のみ如何に高く進みたりとて婦女社會に卑屈蒙昧の者多きときは決して國の文明富强をもて海外に鳴ること宛も英米孛佛の如くなることを能はさる

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

るなり
熟ら我か國今日の狀勢を通觀すれは女生敎育の說ハ勃然として振起し女風改良の論ハ靡然として勃興し政府にありてハ官校を起し公校を置きて專ら奬勵養成の道を開かれ人民にありても亦有力熱心の人ありて協議を立て私塾を設けて女風改良に心を盡せり嗚呼今の時ハ夫れ何れの時ぞ我か國女流か進んて舊天地の弊風汚俗を一洗し去つて新世界の空氣に呼吸するの時なるぞ昨夜の昏睡を一攪し來つて今日の狀態を察するの秋なるぞされハ女流にして聊か眼を具ふるの人ハ奮發志を立て笈を負ふて健氣にも鄕を去り家を離れ或ハ官校に或ハ私塾ミ各其の志す所に從つて孜々螢雪の勞を積ミ智識を磨き學才を長し以て女子の地位を高尙ならしめんことを圖るもの西に東に日一日より增加し南に北に年一年より繁殖するハ吾徒の誠に欣喜して措かさる所にてそさりながら之を全國女子の總數一千數百万の多きミ比例するときハ落々として曉天の星を見る如し未だ以て悅で止むべきにハあらざるなり
今吾徒ゟ江湖の姉妹に向て今の時ハ夫れ何れの時ぞと稱道するハ決して已に志ある孃々諸卿に向て云ふにハあらざるなり深窓に養ハれ衣食住何に一つ不足もあらざるミ已に小學三四年の課程を畢れハ其の父母たるものハ以て足れりとし頻りに退學を勸むれば自らも亦其意に從ひ强て請ふ所ありて修業するの氣力見識なく却て之を嬉きことに思ひ偖其後ハ常ミ家にありて如何なることをなそかと思へハ裁縫を習ふと見せて碌々勉强せそ稗史小說に眼を奪ハれ三絃舞踏に心を盪され俳優の評判お芋の買喰更に學問の必要を曉らそ他日人の妻となり母となるの時に至り家政を治め敎育をなすの術を知らざれハ其の家の盛衰其子の賢否將た如何ならん誠ミ以て氣遣ハしき事ありり夫の三絃と云ひ舞踏と云ふ妓流にありてこそ必要なれ良家の女に之て豈に必要あらんや然るに其親たるものハ己が其の如く養成せられ來りしをもてまた之れを其子に施し貴重の光陰を鏗鏘婆娑のうちに費さしめ不義淫行の所爲あるも茫乎として之を知らす少しく其溫習稽古ミ怠ることあれバ呵責折檻の行あるハ沙汰の限りとや云ハなんよつてこれら志なきものを喚起し兼て其の親たる者に告ぐ嗚呼女子の資格を正當の地位に進めんこそ誠に今日急務中の急務なるべし

◎中外新報

○兩皇后宮行啓の事　兩皇后宮にハ豫て仰せ出されし如く去

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ぬる二十二日午前八時二十分をもて新橋發別仕立の滊車に召させられ同九時十分橫濱停車場へ着御暫時御休憩の上馬車に召し給ひて順路を笹下村の石川善右衛門方へ着御ことにてまた暫く御休憩の後正午の頃杉田村へ着あらせられ同處の妙法寺と呼べる寺にてお中食ありしうへ八幡山邊を御遊歩がてら梅花を御覽せられ梅樹一株を御買上になりて午後八時の頃還御なりしやに承りぬ

○敎育會　大阪府に於て開設せし大阪府敎育會は去る十二日閉會せり其の議決の要領は府立大阪女學校規則初高等科の區別を廢し單に修業年限を四箇年とする事小學校生徒入學期を定めざる事同生徒比較試驗等を施行せさる事同習字本及算術作文書を一定せさる事等なり(三月十九日官報大阪府報告)

○下田氏　過般學監に任ぜられし下田歌子のかたは年俸千八百圓を下賜せられたるよし

○洋婦日本の髷風を學ぶ　この程米國に渡航し居る或る人より何某の許へ届きたる書信中に該國の婦人社會には近來頻りに我か日本のおばこ丸髷などを結ふこと流行する由記載ありしとの事なるが我か國にてはまた彼の國の束髮を學ぶもの多きは流行地をうつもるの諺誠に奇妙と謂ふべし

○盲敎院　去る二十日をもて東両國の井生村樓に開きたる盲人の演説會は深き目的あることにて右發企の盲人達は自今毎月一回宛開會せらるゝよし尤も其目的と云ふは專ら世の盲人を敎育し之れに生計の道を與ゆる爲め盲敎院と云えるを興さるゝ由にて演説會の入費は其の料に充て尙は義金をも募らるゝとぞ

○佛國離婚願受理の規則　佛國大審院の議事局にては夫婦別居を離婚に易ふるの訴願受理方に付凡そ裁判上宣告せられたる夫婦別居を離婚に易ふるの訴願は該夫婦別居の裁判確定の日より右變易を訴願せし日に至るまで滿三ヶ年の期限を過經せし後にあらねばこれを受理せぬ事に決定されし由或る外國新聞に見ゆ

○貞婦　府下南足立郡本木村五千二百四十二番地平民結髮職福田万太郎(七十三)の妻にておなは(七十二)と云へるは其の良人万太郎が去ぬる十二年中より疾病にかゝり起臥さえも自由ならねば況してや商業を營むことの適ふべきされば糊口に差支ゐ如何とも詮すべなきまで困苦すれども絕えて憂しとも思はずこの老体にありながら夜は荒川に往きて鰻を捕り晝は他人の賃仕事や使奔りをなして僅かばかりの金錢を取りこれ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

を代ろとして良人ゝ薬餌を進むること今日までも曽つて撓むことなきよしの其筋ゝ聞えしかバ府知事にハ金二圓を此の程賞與せられぬ

○洋服裁縫共進會　府下ならひに横濱の各洋服裁縫商ハ近々洋服各種裁縫の共進會を開かんとて目下頻りに協議中の由なれば婦人方にハ是非とも一覧をなされねばならぬくわい

○學期取調　横濱にてハ全區内各小學校の學期取調につき區長はじめ戸長小學校長等一昨々日町會所に集會して相談されたる由

○箏曲吾妻八景　下谷御徒士町邊に住まハる〻箏の名人某にハ此の頃吾妻八景の曲をこしらへ居らる〻由さきゝハ山田撿校のはりま八景ありそれにても擬せらる〻にや、はりま八景の曲ハ左の如し

けふをうぞでの、だびのそら、うかる〻こゑもはりまなる、などころところ、たづぬれば、こゝろときめく、ながめのな、山どりの、をのへのかねハ、いりあひ、むつまじづきの、なか〱ゝ、ひとりぬるのを、花にして、その花てふも、しづやのに、ゑづのわらべに、こと〻へバ、おのれをなのる、ほと〻ぎす、とびゆくのたれ、たかはまの、はる〻あらしに、さそハれて、ゑかまにかへる、帆ハちら〱と、ゆふひなゝめに、たかさごの、松ハちとせの。いろなほふかく、ひく人おほき、てがら山、むつるのりがね、たつさぎ山に、つバさまじゆる、そのあすハ、三五やちうの、しんげつ、ちさとのほかの、人こ〻ろ、ちゞみうつろふ、秋のうら、べふのあめきく、たまくらに、ゆめもむすばぬ、よな〱、おもひいとど、ますゐやま、つもるがうへにつもるゆき、これぞまことに、ゆたかなる、としのみつぎと、しられたり、あらよろこばしや、こののぞみ、たんぬるもげに、きみがよの、なはひさかたの、雲のおや、五ふう十うのほど〱に、ときをたかハぬ、やつのけいしよく

◎家庭教育の鑑

○小督

人の賢不肖ハ家庭教育の如何に根ざすものにて其の母たるものハ勿論乳人とてもすぐれたるを擇びて附置かねばならぬものなり孟母の三遷を見ても知りぬべし爰に小督と申すハ石野八兵衛義利と云えるよしある者の妻なりしが或るやんごとなきわたりにて其の婦徳あるを聞き給ひ若君のいまだ七歳にならせ玉ふときおん乳人に召し出されけり小督ハ色極めて黒く

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

醜き婦ながら婦道をよく守り操正しきものなりしが或る日のこと雪いとうふりて御庭の樹々の梢にふりつもりけるを見御傍にありてこの梅よつもれる雪を君よハ何にと御覧したるかむかし菅相公ハ七歳よならせ給ふをり紅梅に雪の降りけるを見給ひて

うつくしや紅にも似たる梅の花
　　わこが顔にもつけたくぞある

と遊ばしけるとなん君もはや七歳にならせ給へば此の雪にて一首遊バし候へかしと言葉の下より君ハ

ふる雪かれしろいなふれ手よためて
　　小督か顔にぬりたくぞある

と詠し給ひにけりこれ小督が色の黒かりしによりてなり君のかく才ある毛偏に小督の教育の人よすぐれてよかるにあなれば其の才益す長して後にハ天晴の明君となられしとなんむかしの話しにのこれり

編者曰く本號より家庭教育方の鑑ともなるべき今昔しの實話を記載せんとて特に本欄を設けたれバ江湖の諸君何卒見もし聞きもしたらんことハ惜ます投書あらんことをひとへに願ぎまいらす

英語の栞 附羅馬字ばなし

MAXIMS & PROVERBS.

泰西の箴諺

Anger is a fire, that consumes heart.
(一)　(三)　(二)　(四)(七)　(六)　(五)

〔意譯〕怒りハ火の如し而して心を燃消す

○泰西箴諺の直譯
(一)怒り(と)(二)火(で)(三)有る(四)夫れを(五)心(を)(六)消費、滅耗、焼失(する)(七)所の(火と返る意)

KAME-NO KO NAGAIKI

Kame-no-ko wo toraete kaeru mono ari; aru hito toute. sore wo nanini nasaru ka? to ieba; sono hito kotaete: "*hai, tsuru wa sen-nen, KAME wa man-nen to uketamawari-masita yue, kore wo kōte tamesite mi-masu!;*" to iitari tozo.

yo no naka niwa kono hito no gotoki mono ōkaru-besi.

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

◎内外列女傳

○船將の妻リンカルド氏の勇氣　（表壽傳）

左に譯出せる一篇の説話ハ去年の十二月北米英領コロンビヤ洲なるコロン府の沖合に於てあハれはかなく難破せし英國リバプール府人の持船に係るリシトン號に乘組居しチヨンストン氏がその船將にてありつるリンカルド氏の妻の勇氣を或る人に物語たるものなりとて横濱がゼツト新聞よ見えたるまゝ其の危難の狀を表書にものして平常にハ婦人の身にしてあるまじく男兒をもおのゞはどの行狀して一朝事あるに臨みてハ絶て眞の勇氣てふものなき本邦婦人の龜鑑となしぬ

頃ろしも千八百八十五年十二月の初めつかた英國リバープール府に纜を解きて北米コロンビヤ洲の或る港へ航せる一隻の帆前船あり全州コロン府の沖合を航するころハ午後七時三十分太陽もいつしかに暮れはてゝ滿天墨を流すが如く冬のそらとて風あらく雨さえ之れに加りければさらでも旅ねハうきものなるに況してや海路の事にしあればその心細さこと云ハんかたなしされど船將リンカルド氏の夫人ハ桃顏露に綻びて匂をこぼし翠黛月に媚びて光りまばゆきまでうるハしくあハれ男兒と生れたらんにハかほどの人をこそ妻とし定めてんと遠近人もリンカルド氏の艶福を羨まぬものなきまでに優美なるもかゝはらず其の性質いと男々しければ千里の波濤もことゝせず始終良人に隨ひけりこの時おのれも全船に乘組居たるが風ハ益すあらびきて[illegible]山をも崩すべき濤を起しもはや安全を保つの望みもたえはつるまでになりにければいざとばかりおのれハリンカルド氏の室に至り聲高らかよ呼ハるやう船体ハもはや覆沒するばかりになれば夫人にハ溺れぬやうよくも子息がためにそれぞれ準備をなし給ひねと夫人ハ之れを聞くと均しく甲斐々々しくも身をかため末子なりける一個の小兒シルダーと呼べるを抱きあげ又船將ハルシーとよぶ其の姉の方を抱かんとする折りしもゆりあげゆりさげ看るゝに船傾きて涙にひたされ纔かに帆檣の方のみぞ浮き出たればみなくその方へと辿りゆきルシーの如きハあれよとばかり去かと船將の袂よこそハ取付けれ（以下次出）

○紫式部小傳　　橘　道守述

紫式部ハ、中納言兼輔の孫、越後守爲時の女、母ハ常陸介爲信か女にて、式部丞惟規の妹、大貳三位、辨ノ局の母也、若く

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

して、左衛門佐宣孝に嫁き、宣孝早世の後、此二人の女子の為に、上東門院に宮仕に出たり、此人、藤原氏にて、式部ノ亟の妹なるか故に、もと藤式部と呼しが、源氏物語の内、紫ノ上の事を、勝れたるやう書たるによりて、異名を紫式部と呼れたるが、却て廣まりたる也、其由ハ、紫日記といふ書に、左衛門督、公任あなかしこ、此わたりに、若むらさきやさふらひ給ふ、とあるにてしられたり、又日本紀ノ局とも、呼れし事ハ、同書に、うへ一條天皇の、源氏の物語、人によませ給ひつゝ、聞食しけるに、此人ハ日本紀をこそよみたまふへけれ、まことに才あるへし、と、のたまはせけるを、ふとおしはかりに、いみしうなん才あると、殿上などにいひちらして、日本紀の御局とそつけたりける、いとをかしくそ侍る、とあるにて知へし、又漢籍にも、行たらひたる事ハ、兄式部亟惟規か、わらはにて、史記をよみ習ふ時、傍にありて、先に覺え、且つ兄惟規ハ忘るゝ所あるを、此人、あやしきまて記臆したれハ、父為時か、男子にてもたぬか不幸なりと、常になけきしよし、ものに見えたり、又貞操正しき事ハ、其頃御堂殿と申ハ、攝政、關白従一位氏長者藤原道長公にて、官錄身に極め、御子あまたおはするに、男ハ、皆高位高官、女ハ、一條、後一條、朱雀、三天皇の皇后なれハ、前後たくひなき榮えにて、天子にもまさりたる勢なれハ、世間の事、心のまゝならぬハなきを、只其人のみそ、其心にしたかはさりき、されと、しはしは言ひより給ふも、年久しき程なるに、其御心にさへ給はぬやう、程よくあしらひ申たるハ、實にためしなき、才女とたゝへつへし、

○松田さつ女の傳

節義のこゝろいと厚きより今の世に至るまで人の心をうつさんと其名ものゝみ山とたゝえて傳奇小説にものせられ俳優の打扮する所ろとなりし松田さつ女と云へるハ毛利甲斐守の家臣にして小十人組の頭たりし八助の娘なりけるが松平周防守の奥に仕へお道と云へる奥女中の下婢となりにけり玆に又周防守の夫人ハ亀井隠岐守の令嬢にして外家より附添來りし局に澤野と申す老女あり落合某の娘にて年紀ハはや六十路になりぬ生質いと短慮にして情すくなく奥に仕うる女中の面々ハ皆な忌み嫌ひてけり頃ハ卯月の夕暮一と村雨のふりすぎて青葉いろ増す奥庭の景色を眺めおハしける夫人ハ初郭公のおとづれしを聞給ひて傍に侍りし了鬟を召し給ひ初郭公あだに聞もほいなし道をよびて筑柴琴にても調させてんとありければ急ぎお道を呼しむるに折しもお道ハ下婢のさつに髮をつ

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

けさせてありけるが丁髪どもが追
く々に呼び來るゆゑやがて出なんと
して廊履を見るになしさつもそこ
こゝとなくたづねさがしつれどあ
らざるよ心せわしく心ならずも側
にありける廊履を穿きて出ゆき夫
人の前よありて琴を調べければ豫
て其の心ざまの柔和なるをもて殊
に寵愛せらるゝ事なり且つハこの
夕いとおもしろく調べにければ夫
人も殊の外興に入らせられけり暫
くありておの道ハおのが部屋に退ん
とせしに局澤野ハ高らのなる聲ざ
まにてこの廊履一應の挨拶もなく
誰がゆるして誰が穿きたるぞ不作
法なりと怒り罵りければお道ハ驚
きあまりに心せはしかりしゆゑ余
心ならす穿き違へ今更申しわけも
これなき次第なにとぞ御ゆるしを

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

願ぎ侍ると廊履を取つて局の前になほし置ければ局はいよ〳〵憤りてそもじは武士の娘との申そことなるが武士の御家に奉公し侍るからは武士の禮法は知らずては合すむまじ他人の廊履を一應の挨拶もなく穿きながら咎められて御許を願ぎ侍るといへば其儘にて濟むことゝ思はるゝにやてこれが若し男兒どちならば決して堪忍はならぬものぞかしそもじの穿きたる其あとを私に穿けとは不禮なるとぞもなり以來心をつけられよ此の廊履はそもじに進らそとて足にかけて蹴與えしまゝ奥の方へぞ入りにける此の時お道の無念さいかばかりにてかありけんかし

（未完）

○奈良義成が妹

顧柳　居士

永祿のころ呉れ竹のふし見の里に住み居たりし奈良義成と云える人あり此の人の妹は世にも匹まれなる美人の譽れありて妖艶たる紅顏は彌生中浣の櫻も羞ち裊娜たる細腰は如月初旬の柳を欺きそが外の方へ出るの時にはアナ光でたし此の世に男兒と生れたらんものはいほどの美人をこそ妻ともよび夫とも册かれて後まことの男兒とも稱すべけれと人皆な目もて之れを迎ひまた送らざるものなき程にて殊に三十一もじの和歌の道さえ暗からず奔り書もまたいとめでたければ西岡の人にて兄義成が久しく吹笛を學ひたりし貞光久左衛門これに戀慕れ一重の膝を八重まして拜まぬばかり懇望し閨の花とも詠めんとせりされど久左にはもとより妻あり義成が肯がはぬとをさとりしかばいかにもしてまづ之を離別せんと計りしにぞ義成はなほ〳〵肯はぞ前妻を逐ふて我か妹を嫁するは人倫の道にあらずと固も辞にければ久左の思ひはいやましつのりこれよりは物に付け言に觸れしげ〳〵往來して交を厚くしいつぞは其志を果さんと執心の程こそ可笑けれさりながら義成はいよ〳〵師弟の禮を正しくして或日のことひそかに母とかたらひ妹をさとして野村越中高勝と云えるに婚儀を約したるは寶に永祿十二年の春にてぞありける時に大將軍足利義昭公は本國寺にあり三好の黨急に起り義成も亦其黨中に加りて義昭の本國寺の館を襲ひしが軍は利あらずして敗を取り義成は遂ふ東寺の方へ走れりこの時久左は戀の遺恨に義成を獲んと欲しいづこまでもと追かけ〳〵きてきたなしかへせと呼はりければ義成も今は是れ迄なり花々しく戰ひて討死せんと駒を回していざとばかり戰はんとする折りしもあれ敵十余騎塵を蹴たて〳〵驀ぐらに駈け來り義成めがけよつぴいて射たる箭はあやまたず其の体に中り馬よりまつ倒まに墮る處を久左は駈けより

二百三十七

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

誠んとせしに義成もさるものなれば踏ながら刀を揮ふて久左の膝を斫れりされど味方ハ一人敵ハ數人いかで免がるゝ事のかなふべきぞ遂に義成ハ久左の爲めに誠られぬ當時これを知る人ハ皆な爪彈きして久左を誚りしとぞ去る程に久左ハ今ハ我が戀もかなふ時こそ來りけりと伏見にいできて義成の妹を奪ひ之れを別宅に圍ひたりしが妹ハ伴つて心のらしたがふ如きの色を見せ言葉巧みに妾こそ夫越中も兄と與に討死せりと聞くからハ今ハはや孤のやもめにあなれば誰れをか便り誰れにかよらんまことおん身が情あらバ一旦の詠めに供へす末かけてよくわれみを垂れ給ひねとうきロ説きまた此の書を故郷なる母許とゞけてろの心を慰めたしと乞ひつゝも書認めて髮の毛を二筋三筋ひそやかに封じこめしを迷ふ身の久左ハいかで知るよしあらん今打とけたる言の葉にいとゞに長き鼻の下をば又もや尺を伸しつゝ坐ろに涎の頤に傳ふを覺へす唯々諾々と其の意に任せわざ／＼人を伏見よ遣りて書をば母の許にとゞけにけり斯て母ハその書を手に取あげてうち見るに中に詠あり

おもひ川深きふちせハはやけれと誘ふ水にハなを流さめや

このほかにくわしく事のもとすゑを書きしるしたれば母ハなげきかなしめども甲斐なし遂よ使者の面前にて刄よふしてぞ死たりけるこれハさてをきこゝにまた久左ハ使を遣りし後大に悦び妹の身により添て圓なる眼を細ふしつ手をとらえ巳に戯きふるまひをなさんとせしに妹ハ俄に突立あがり紅潮臉に上りて柳眉倒まに久左が佩刀に纖手をかくるかと見るまに只一とつきに刺しころしおのれもまたその塲を去らず腹を剖て死したりける世にもめづべき婦人にこそその後織田信長公これを聞きたまひて久左の不義不仁ハ誠に誡めざるべからずとてその妻孥をばことく／＼とらへてはりつけにぞ行なハれたりとなん

◎女紅

○香水の製法

香水に薔薇の露その外種々さま／＼のよび名をつけて坊間に賣り捌けども香の馥郁として久しきにたもるものハ誠に鮮き者なりこれ薔薇の露などの名あれども其の實薔薇の花より取りたるものにあらざればなり今香のいと高くして容易製へ得べきの法あり即ち左に

一山椒油　一匁

一橙皮油　五分

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

一四十度アルコール　五夕
右混和せしむること大概三日間にして更に又
一三十度アルコール　一合　一蒸溜水　一合九夕
右加へたる後ろの波を透明らしむるにハ（マグチシヤ）
（炭酸ボッタース）少量を投すれバ忽ち水と一樣鮮明なれ
り又其色を着んと思ふ時よハ（サフラン）或ハ（洋紅）等を
まじへて可なり

○ワールン氏西洋料理法の飜譯（前號の續き）

一人前一週間の食料　一人前一週間内よ要する食料は大略
左の如し（數量と讀者の悟り易からんことを計り我が名稱よ
譯して揭げたり但し大數を示すのみ）

茶	凡そ目方	拾六匁
コフィー	同	三十匁
コ、ア、ペースト	同	三十匁（但し朝餐用）
砂糖	同	六十匁
チース（乾酪）	同	六十匁
バタ（牛酪）	同	六十匁
牛乳	同桝目	七合（但し暮し向きに由りて多少の違ひ甚しかるべし
パン（麵包）	同目方	婦人八斤一百二十目　男子及び小供　十六斤
肉類	同	六斤
麥酒	同桝目	婦人　二舛五合　男子　四舛五合
馬鈴薯	同目方	三斤半

大略右のごとしと雖も家々に由り大いに異る所あるべく且つ
都府と田舍とハまた相違ありと信ずるあり
野菜、魚類、プティング等を多く用ゆるときは肉類の量を減少
しまた茶あるひはコフィーを多く用ゆるときは是等の量を減
ずべし故にまへに記したるものは固より完全の統計にあらず
と雖どもいまだ實驗あき賄ひ方のために只大概の參考ともあ
りぬべしと斯くは揭げをきぬ
また肉類は料理の際幾分の減少し且つ骨抔を取除くがゆゑよ
すこし餘分を見込み置かざるを得ず　（以下次號）

○匂ひ袋

匂ひ袋をこしらへるに三十五法あり皆やげんにてこまかにお
ろそことなるが其のうち尤もよろしく仙洞御所などよておこ
しらへ遊ばさるゝ初音の製法
一丁子　五両　一龍腦　五両　一白檀　一両
一麝香　一匁五分　一かんせう　三両

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

又勅命によりてこしらへられし寢覺めと云へるは
一伽羅粉　二匁　一丁子　二匁五分　一白檀　五分
一麝香　一匁　一龍腦　五分　一はいそう　二匁
又女院方の法は丁子三匁かんせう九分ういきやう三匁白檀一匁ちんかう五分麝香三分龍腦五分

◎群芳詞苑

○水邊盛花　鈴木まる子
大井のは水よさくらのかけ見えてなミの底にも春はありけり

○歸厂　同じ人
花かをり柳はけふる春をすてゝなにを見んとや歸るのりのね

○春は旅ひ　同じ人
春さめのふるさと遠きたひ路よは花を見るさえ物うかりけり

○鏡　同じ人
姿よりくもる心のはつかしやますみのかゝみ見るにつけても

○冬日郊行　香雲女史
江南江北帶烟微。昨雨已晴苔色晞。枯柳含風數絲乱。繫來斜日止人歸。
評佳詩

○讀日本外史　鐵心居士橋本
尊王兼愛國。史筆有誰如。詎計維新業。胚胎頼氏書。
評思維新業雖曰多胚胎頼氏書抑亦當時非有非常勤王家輩出則不能如何

○尋花　同
乘暖尋春水一涯。喜見疎影幾横斜。明晨携友重來賞。風雨爲吾幸守花。
評風雨有情一讀此詩諒應能守花

○春園歩月　同
春夜惱人眠不得。起下庭園乘興行。微雲々外花籠月。遠是朦朧近是明
評情景可掬

○題常盤雪行圖　同
一婦懷一兒。左右携二兒。而立於風雪中。是不問而知其爲常盤也。當此時常盤凍死於野乎。三兒何由得生。其免凍死者。蓋天有待於他日也歟。其見浄海也。情炎不可辟。全節乎。觸彼怒。三兒何以能保生。常盤亦蓋有待於他日也歟。嗚呼。常盤可謂有遠圖者也矣。某題
評如見眞圖

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

稗史小說は正史の余なり專ら婦女子の讀む所のものなれども是れまで我邦にて綴り來りたるものは多く鄙野の言をもて淫猥の事を寫し良家の女子の讀むべきものにあらず由つて和漢洋ともつとめて淫猥の事を省き交る〲に揭け出して江湖の一餐を博せまく欲りす

○英國小說 剪燈情話　（第一回）

山橋村ニ排士遇レフ友ニ　禮拜堂ニ非利成レス親チ

英國波羅州に一の小かなる鄉落あり山橋村と名け其の地深く万山の中に僻在し徑路曲折峯巒環抱泉淸く土厚く居民稠密にして果然一個の好境たり但し是の地方山媚び水明かに風景佳絕なりと雖も通衢大路に沿はざるを以て極めて著名の處ろたり難し故に四方來遊の人絕えて少なく間に或は畵友詞人筆墨を携ねて至り或は文人學士酒榼を擔ふて來り其の牧童樵兒に追踪するもの一歲の間に數十人に過ぎさるのみ是を以て外事世情を聞くこと太はだ罕なり古人の所謂桃花源別に天地あるもの庶幾んどこれに近し且つ說く山橋鄉內に一個の基督教師あり名をば排士と云ひて年紀約そ三旬無事に閑居す此の人身には法衣を着くると雖も教事に於ては十分に經心せず排士幼年の折には父母他を大學校に送りて讀書せしめ冠するに及びて父母ともに世を逝り坐からにして遺產數万余金を得たり排士遂に世務に入り遊玩宴樂の事歌舞徵逐の場賓たらざるなくして樂んで還ることを忘る万余金の遺產花消浪靡いまだ幾年ならずして悉く煙の如く消え霧の如く散し一物だも贏すことなし獨り憾むべき所のものは金未た尽きさるの時相結びたる友交りさる朋頗る多かりしも金既に盡きて往時同しく優遊逐隨しさる者も皆な冷淡疎濶累責の己れに及ばんことを懼る古人詩あり世人結交須黃金々々不多交不深と何んぞ況んや排士一朝零落囊中洗ふが如くなるに於てをや嗚呼排士はさきに高軒大厦に住み暖衣飽食出づるには車馬あり入るときは婢僕あり優遊是の居諸を消しさるも漸やくにして糟粕にだも飽く事を得ず影を顧りみて獨り自から憐むに至るこれ將た天なるかな命なるかな這の般幸ひにして山橋地方教師の任に當るを得て俸給多からずと雖もこれに就て衣食を計るべし排士既に此の任に接して遂に安心樂意日を消すといへども夜闌はに燈滅ゆるの時には鰥衾一夢さびしさに堪えられず晴日早く起ては山水明媚の間に遊觀し或は漁り或は獵りして愁を

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

消し悶を遣れり元來此の郷中の子弟にして秀才なるもの少く富める家もまた貲本を擲ちて圖書を購ふことを好ます排士ハこれをもて共に文事を談するの友なく偶ま遊人の此郷に來りて客舍に寄寓するものあるときハ必ず往き訪ぬることを常とし世事を探問ひ或ひハ携え來りし新聞を一覽し且つ兼ねて各人遊與の導引をなし漁せんとのぞむものあれバ水淸く魚聚るの處に到り畫かんと欲する者あれば山奇かに谷幽かなるの處に往きけれバ遊人ハ皆な他と友たるを樂み酒詩纏綿歡を盡して散せさるハなし一日正に是れ十月の初旬排士ハ飯後無事なればバ小室の內にありて一の釣道具をこしらへ居りしに忽然一小童來りて門の扉をホトヽヽと敲き一喊して客舍に新たに來りし一客あり急き君に見んと請ふ旨告ぐりければ排士ハ應と荅えて手にもちし魚釣を棄て傍よありし帽子をとりてゆかみしまゝに打冠りつゝ取るものも取敢ずぞ出往きけり且つ説くこの日新にまいりたるところの客ハ衣冠も整齊して容貌極めて光彩あり自から云ふれのれハ友を訪つねてわさヽヽ來れりと鞍を解きて店に投し直ちに人をつかハして排士の來り訪ふことを請ハしめたり原來這客ハ是れ誰れなるか未たその姓名を知るによしなし

（以下次號）

○御伽草

○證謎

日本西洋等にも謎々と云へるあり支那にてもまた證謎と云ひてこれを詩よ作り或ひハ文に作りて解かずる事なり而して其の方法ハ玻璃燈日本にてハ行燈またハランプの傘に其の詩或ひハ文を書きて貼付け明るくて多勢の人の見易からん爲にして解かしむるなり雨の夜の徒然なるなどにハ至極ミやびにたのしき遊びなりかし左に一二を出す皆樣解てごらん

身自端方　體自堅硬
雖不能言　有言必應　打一用物

階下兒童仰面時　淸明粧點最堪宜
遊絲一斷渾無力　莫向東風怨別離　打一物

○蟹の横這ひ

或る日のこと蟹公數多の子供を引き連れ夫婦にて河岸に遊び居たりしがふと其子供達の横さまに步行を見て今さらのごとく叱ッて云ひけるやうハ「コレ汝達ハ何故に左樣な見にくき步行ざまをするのダ眞つすぐにハ步行けぬものかこの間拔ども」と子供等ハ之を聞きて「オヤ阿爺さんなども横にあるく

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

癖に何んで私なぞを叱るのぞへ私なぞハ阿爺さんおぞを真似て居るのだよと云ひかへされ流石の親蟹も毘沙門蟹のごとく顔をしかめ閉口しながらも「口返答をすると此のはさみでつねるぞよ

評人間またかくのことき事あり心すべきなり古よりの諺に人のふりを見ておのがふりをなほせと宜なり〳〵

○尿口頭にあり

或る書生がその先生に尿の字ハ如何やうに書きまするぅと問ふたりしに先生ハ一時其の字を忘れて答ふることならぞ沈吟半晌ばかりして膝をはたき「唉尿いま〳〵しい、ほんとに口頭まで出てきて居れど一寸云ひだしきらぬ哩

○謎

下手の文章とかけてさうとめと解く其の心如何

○考へもの

始終一處に連れさうかられさぞ睦まじきことならんと思へるれど左まおらず火をともすおとよりすれ合て遂に一方ハ身を亡せどもまたおつくなるものあり何ものなるらん

鳥類の名にて二つを集むれば獸一匹となる其の獸は何なけものでありませう

◎机の塵

○涅齒

女の齒を涅るまとハ年久しきものなりされど其のはじめハいつの時代なるにや知れず紫式部日記並に赤染衛門が榮花物語等にも見え侍れば其始めハこれよりも猶久しき事なるべし開明の今日齒を涅る人も漸くになくなりゆれば要なきわざながら偶ま伊勢貞丈の雜記にこのことの載あるを見しまゝこゝに記し置きぬ

○回鸞

回鸞とハ壻入のこと也まハ五雜俎に見えたり今の人三日の後女むこと偕に父母を省る俗に所謂さとびらきを回鸞と謂り閩人ハこれを轉馬と申せるよし尤も春秋の頃にも回馬とハ申せしなり

○女の名におの字を稱する事

婦女子の名に御の字を稱ることハ三代實錄卷の八に藤原朝臣お康あり是れより己前にハ見る所なし（燕石雜誌）

○孕たる女の子をおろす事

はらみたる女の子をおろす事ふるくもありまことに惡しき風

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

習と謂ふべし清原元輔集におとよの人の國へまかるほどに子をおろしける女のよめる

たらちをのかへる程をも知すして
　如何にすてゝしのりのかい子ぞ

○生花

生花ハ貴き人を招請するときハ前のたより生けをく可らす慰みにと云ふて客に生けさすることとなり亭主ハ生けすいろ〳〵の花を多く調べをきて客に生けさそる事なりこれ逍遙院殿の記よ見ゆ

○婚禮に寅の日を忌む事

東京大阪ハ勿論婚禮の日を撰むに總じて寅の日を忌みて除けたりまことよいハれなきこととなり古語に曰く虎ハ百里を行て路を失そとされバ婚禮にハ却て寅の日こそ好ましけれ

○官女の裝束

天文八年曇華院の尼君の書き給ひし女房飾抄の中に官女の裝束あり其の五ッ衣の次第一通りの式ハ五衣ともに綾なり

第一衣　紫　紋椿唐草　　第二衣　白　紋桐唐草
　裏ハ平絹の紅
第三衣　紅　三重梅花　　第四衣　黄　紋唐花
第五衣　縹　紋唐花唐草　　一單　萌黄　紋花菱これ五衣の下也

一緋袴　紅の精好裝　白の穀織大腰引腰（表ハ窠よ霰裏ハ重ね菱）

又唐衣ハ地白重菱浮紋の白き八ッ藤（裏ハ紅地重ね菱板引なり）打衣ハ唐衣の表と同し其裏ハ紅の平絹なり小袖ハ黒紅梅ののしめ表着ハ二重織物地紋大梁練の小紋よ白き浮紋の唐花裏ハ紅の平絹歟これハ女房の第一の表着なり此の次ハ打衣なり云々又女房の小袖」朝庭の女房ハ三月朔日より二ッ襟四月朔日よりわとせ二つこしまき　五月五日よりすゞし裏六月朔日よりまるすゞし九月九日より二つ襟（公廨よハ三つ襟か）十月一日より三つ襟又紅梅ぬき白ひとつませハ二十八の春まで又かもしの水引ハ四十の年より二筋なり

○女の眉そると

女の眉そることハ黛もて書んとてのとなりさるハは之際のしどけなき處ろ色のこきうすき處などありてわろびたればそれを剃り落して思ふまゝよ書くなり今大かたハ剃りたるまゝにてかゝむ物ともおもひたらぬハ無沙汰なると也

○御紋を賜ハると

永祿四年將軍家三好筑前守義長　松永彈正少弼よ御紋を賜ハりしとわり是れ御紋さまふとの始めなるよや

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

各滊車出發幷出船時間表

東京横濱間滊車出發時間
午前六時二十五分、八時、九時[illegible]五分（急行列車横濱ヨリ
八時五十分[illegible]）九時四十五分、十一時〇午後十二時十五分、一
時三十分、三時四十五分、四時、四時四十五分（急行列車）六
時、七時十五分、八時三十分、九時四十五分、十一時（大森鶴
見停車せず）

上野高崎間幷前橋滊車出發時刻
上野發　午前五時十五分、八時十一時、午后二時十五分、四時五十分
前橋發　午前七時五十分、十一時十分、午后二時二十三分、五時五分
高崎發　午前五時三十分、八時十一分、十一時二十九分、午后二時三十九分、五時二十四分

上野宇津宮間客車出發時刻
上野發　午前八時、午后四時四十五分
宇津宮　午前八時二十五分、午后四時四十分

新橋赤羽間列車出發時刻
新橋發　午前七時二十分、十時二十五分、午后一時二十分四時十分、七時二十五分
赤羽發　午前九時七分、十一時三十分、午后二時五十分、六時五分、八時四十分

高崎横川間
高崎發　午前六時四十五分、十時、午后一時二十五分、四時四十五分
横川發　午前八時二十五分、十一時五十分、午后三時十分六時二十二分

東京横須賀間出船時刻
靈岸嶋、芝金杉、品川出船　午前八時、十時、午后一時、四時

横濱、横須賀間出船時刻
横須賀發船　午前六時五十分、十時五十分、午后一時四十五分四時十五分
横濱波止場發船　午前八時十五分、十時四十五分（午后）一時三十分、四時三十分

廣告

○歐米女權　中村敬宇先生序　湯目北水先生編纂　全壹册　定價三十錢　郵便税四錢

○清國漫遊誌　成嶋柳北先生序　副嶋種臣先生閲　曾根俊虎著　正價金四十五錢　郵税自便

○婦女庭訓の眞鏡　東條竹堅著　繪入かなつき　全壹册　定價三十錢　郵便税四錢

○女子作文楷梯　女子必携　七條峯太郎編輯　鼇頭作文要用字類　和製中本全壹册　定價金貮拾貮錢　郵便税四錢

○明治流行うそ八百　滑稽新話　壹册正價二十錢　郵税四錢

○忠經旁釋　漢馬融撰　日本佐藤棍先生旁釋　木板手刷　正價拾錢　郵税四錢

○明治英名傳　正價金三十錢　郵税共

○人命保險人間長壽法　正價郵税共三十錢

○東京高名鑑　正價二十五錢　郵税共
此書ハ府會議員、區會議員、新聞記者、演説者、詩文書畫の先生、代言人、等を掲載したる重寶の本なり
右書籍の外逐次出板書籍廣告仕候間續々御注文を乞ふ

千葉師範學校體操教師馬場壽先生著
訂正増補小學徒手體操新書　第二版　美本全一册　定價八錢　郵税二錢

馬場壽先生著
○啞鈴體操新法　美本全一册　定價金十錢　郵税金二錢

馬場壽先生著
小學生徒美容術　全一册定價金六錢　郵税二錢

馬塲壽先生著
訂正增補小學
徒手体操新書圖解
農學士菊地熊太郎編述

定價金六錢
郵便税二錢

○化學理論一班 全一册

定價金二十錢
郵便税金六錢

嶋津倉治編輯
○明治新刻日本溫古類聚 全壹册

定價金三十錢
郵便税金六錢

小池民次序
馬塲壽著
新瀮小學遊戲書 全一册

洋本仕立小本 挿密圖
定價金拾五錢郵税金四錢

千葉本町壹丁目
立眞本舍

東京大賣捌所
績文舍

▲成刻大發賣廣告

小池民治君序
馬塲壽君著
▲新撰小學遊戲書 全 價金拾五錢

右書先キニ廣告仕候處諸府縣諸先生ヨリ陸續御注文ニ預リ弊舍幸榮之レニ過キズ然ルニ何分ニモ製本間ニ合ハズ遺憾ナガラ配達御斷リ申上候モ成刻仕候間正ニ有之候處今般數万部御隨意ニテ澤山御注文伏テ奉願上候尚多數御求メノ御方ニハ割引差上申候也

御代用 成刻 金又ハ 郵便切手

明治十九年二月

千葉本町
出版書肆立眞本舍

上總市原郡石川
長峰書舖

大賣捌
東京本郷春木町
美濃津体操器械店

佛國女學士路易達爾克原著伊藤重固君譯
東京大學教授櫻井省三君閲山成哲造君校
西洋束髮秘傳 附 化粧秘傳 全一册美本

密書廿七入定價六十錢郵税共六十四錢

此書は西洋に名高き佛國風の束髮及化粧の秘法を示すものにて種々の束髮を自身に爲し得る法を説明し其他髮の治療法を數多傳授せり又化粧術は我邦にて思付さる奇術多し御講讀の上御試驗あらんとを乞ふ

東京神田雉子町
大賣捌所 國々社支店

發行所
東京々橋區南鍋町貳丁目拾壹番地
績文舍

持主兼印刷人 松本義弘
編輯人 山田常治

女學叢誌賣捌所

東京芝區愛宕町一丁目三番地 大賣捌所 修正堂
同 神田區淡路町 同 巖々堂
同 神田區雉子町 國々社
同 日本橋區新葭町 良明堂
同 牛込肴町十七番地 活神堂
同 芝區愛宕下町二丁目 高槻堂
同 蠣殼町貳丁目 信文堂
同 本郷區本郷元富士町二番地 盛春堂明田
同 同 本郷春木町貳丁目 解明堂
同 神田區佐柄町廿一番地 東海堂
同 牛込區牛込神樂町 積善舍
大坂府備後町四丁目 岡嶋文店
千葉縣千葉本町一丁目 立真舍
藝州廣嶋大手町一丁目 早速社
江州彦根西内大工町 新々堂
陸前國仙台大町四丁目 木村文助
越後國長岡裏壹之町 大橋書房

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY